



(仮称) まちづくりに係る総合的な条例 第3回意見交換会

令和6年11月20日 台東区都市づくり部 都市計画課

《 お願い 》

- 携帯電話、スマートフォンをお持ちの方は、電源を切るかマナーモードにご設定をお願いいたします。
- 意見交換会の記録作成のため、後方からの写真撮影と録音をさせていただきますので、ご了承ください。

本日の流れ

19:00-19:10 1. はじめの挨拶
(10分) 2. 本日の概要説明

19:10-19:25 3. まちづくり活動の支援に関する事例紹介
(15分)

他地域で実施しているまちづくり活動に対する支援メニューとは？

19:25-20:45 4. テーマ別意見交換会
(80分)

アイスブレイク（自己紹介）

※1人1分以内で名前や所属、意気込みを紹介します

【テーマ1】それぞれの活動は、地域の課題解決や、地域の魅力向上に向けてどのような役割をもつと思いますか？

【テーマ2】テーマ1で挙げた活動を実施するために必要な支援は？
グループごとに発表（20:30より）

20:45-20:50 5. とりまとめ・おわりの挨拶
(5分)

第2回意見交換会の振り返り

チーム1

- ・黒字:まちづくりの活動(内容、活動主体、場所など)、その他
- ・緑字:活動にあたっての課題と対策(支援など)

いただいた主なご意見

地域における活動

- ・上野における道路活用イベントを実施している。ひとにやさしいまちや居場所づくりを目指している。「日常」「豊かさ」の価値の視点から見直したい
- ・養蜂やまちづくりたいとうの活動、北部地域でのA-ROUNDの活動を行っている
- ・入谷のビルで、イベントスペース、シェアオフィス等をやっている
- ・ウォークラリーや養蜂を実施している
- ・マンション理事会における活動、区内における設計事務所としての活動、区有施設の点検、空き家対策、よろず相談などを行っている
- ・台東区北部地域で、高齢者や障害者を含む生活のケアを行っている。近年進んでいる市街地更新が、地域にとって良いジェントリフィケーションとなるとうい
- ・音楽(合奏、コーラス)のイベントを社会教育館4館で実施している。まちづくりはソフト中心に支援をいただきたい

新旧の住民

- ・町会行事として、お祭りやラジオ体操などの活動を行っている。マンション住民と町会の関わりが薄い印象である
- ・従来の住民に対し、外国人居住者が増え、次世代の新住民も想定され、そこに大きなクレバス(深い割れ目)がある
- ・銭湯がなくなったことによるコミュニティ意識の低下がみられる
- ・マンションでの挨拶励行や、町会のもちつき大会への参加などでつながりを作っている。その活動を継続していくために、活動場所や活動費用に対して行政サポートやNPO等の支援余地がある
- ・マンション住民と商店街・町会との関係は、子どものつながりや集会場の活用で構築しやすくなるのではないか

まちづくりとは

- ・地域は何百年もの歴史があり、歴史を踏まえた議論が望ましい
- ・誰がまちづくりを担うのかがまず重要であり、上野はこのままでいいのかと課題認識をもって、リスタートする
- ・まちづくりの目的、誰のためのまちづくりか(観光か住民かなど)を明確にし、様々な人が参加し易く、コミュニティ形成が期待できるような、区民が声をあげる場所づくりが必要。さらに行政等との責任分担の仕組みや情報発信が必要である
- ・エリアの評価をどう考えるかが検討する必要がある。地価ではなくシビックプライドのようなものではないか
- ・上野と浅草では地域特性が大きく異なることに留意が必要である
- ・区役所には都市計画や観光など様々な部署があるが、オール台東区としての窓口が必要である

第2回意見交換会の振り返り

チーム2

- ・黒字:まちづくりの活動(内容、活動主体、場所など)、その他
- ・緑字:活動にあたっての課題と対策(支援など)

いただいた主なご意見

身近な活動

- ・まちの人を対象に、ちょっと手を貸したり声をかけたりしてまちでコミュニケーションを取る活動を行っている
- ・池之端や根津あたりで定休日を活用してジェラートを販売しながら、コミュニケーションを取る活動(赤ちゃんおしゃべり会、小学生コラボ、フリーコーヒー)を行っている

街並みの保全

- ・昔ながらの街並みを保全する活動を今後やりたい
- ・環境部会(谷中)での街並み保全活動を実施している

環境・清掃・防災活動

- ・マンション街で土づくりや花、野菜を育てる活動を実験的に実施しており、これをきっかけに通りがかりの人と会話が生まれているので、区民農園、緑の芝生のある公園があったら今後活動したい
- ・サンデークリーンとして、月に一回程度清掃活動を行い、終わったあとドリンクの時間を楽しんでいる
- ・マンション単位での防災活動を行っている
- ・根岸地区(3~5丁目)で都市復興訓練に参加した(発災時の復興まちづくり)

イベント

- ・マンション内コミュニティのきっかけづくりとしてロビーコンサートを行っている
- ・マルシェのような、主催側と来場者が分かれるようなイベントは、つながりや一体感、コミュニケーションが生まれにくいように感じる。まちづくりはイベントではなく持続性が重要だと思う
- ・谷中たいこの会は、子どもが住み続けるまちに貢献できるため、良いと感じた。子どもが中心となる行事は子どもがこのまちに住み続けたいという気持ちにつながるため、持続性があると感じる
- ・PTAのOBの方達などを対象とした小サークルの活動支援を行っている
- ・まちづくりカレッジの運営補助を行っている
- ・マンション内のコミュニティ醸成のためマンションロビーでのコンサートを仕掛けたいが、その企画を各マンションに提案するにあたり、活動に対する区の後援がほしい
- ・区より、様々な活動(活動の周知、備品レンタル代、その他運営にかかる費用)に対して少額でもいいから資金支援があるといい
- ・区役所職員(係)で情報共有していないので、行事が重なる

情報発信

- ・小学校学区域での子ども情報配信(町会からの支援)を行っている ※文京区も一部対象
- ・不登校の子、障害のある方など、様々な人に幅広く参加してほしいので周知が必要である
- ・オープンスペースでの開催時の気候の問題(酷暑、雨天など)がある。場所の環境や提供などに関する情報発信があるといい
- ・情報発信について、区のHPの階層が深く見づらい。まちづくりに関しては外部サイトをつくるなどの支援が区であるといい。老若男女、誰にでも伝わりやすい広報をするための支援が必要である
- ・LINEを使っているが、月額料金が必要なることから、区からの支援があるといい

制度

- ・都市計画の変更が必要である。用途地域は商業地域がほとんどであるが、実際は住宅が主体の地域であるなど実態と乖離がある。商業地域では容積率が高いので高層のマンションがどんどん建っている。地域特性に応じた用途地域にする必要がある
- ・分野横断の活動が多いが、区の体制に横くしとなる所管がない

町会等

- ・町会内の参加にハードルがある。町会が何をしているか分からない人もいる。参加する人も少なくなっている
- ・町会問題は区民部で調整しているが、別に違う部署をつくるかどうか検討課題ではないか
- ・今までの町会をリスペクト(尊敬)しつつ、町会に権限を付与しながら活動を推進したらよい。区は町会に色々なことを頼みすぎている
- ・昔ながらの街並みを保全する活動について、文化遺産を残す意見と、古い物は要らない意見が対立している
- ・谷中以外の人から、谷中について色々と言われる。自分たちで保全活動しようとしても、外部の人から反対意見があっとうまく進まない場合がある

第2回意見交換会の振り返り

チーム3

- ・黒字: まちづくりの活動(内容、活動主体、場所など)、その他
- ・緑字: 活動にあたっての課題と対策(支援など)

いただいた主なご意見

小さく始める区民スケールの活動

- ・ソフトとハード、どちらかではなくどちらの活動も大切である
- ・自分が自ら主体となったり、誰かの活動に参加したい
- ・お金の得方が分かりにくい。補助金(助成金)の支援の仕組みを分かりやすく伝えてほしい
- ・少しスペースがあれば、まずは小さなことから活動を始められるような仕組みづくりが重要である
- ・まちづくりカレッジを通して、地域のお手伝いをしている。まちづくりに関する意識を向上させたい
- ・地域コミュニティが衰退している。人が居なくなるリラククスできる空間づくりが必要である

増えていく外国人との共存

- ・コロナ前より外国人が増えすぎている
- ・民泊が増えているが、隣の家に住んでいる外国人が住民か旅行客か分からないと不安感を覚える
- ・外から来訪者を受け入れすぎなのではないか

人を巻き込みやすくする町会の仕組みづくり

- ・青年むつみ会に参加している。活動をやればやるほど楽しくなってくる
- ・町会に入ったきっかけは、先輩に誘ってもらった。声をかけてもらえると入りやすい
- ・普段暮らしていて、町会について知る機会がない。お金を徴収されるときだけ意識する
- ・普段の生活で、町会には入ってなくても困らないので、入りたいと思うきっかけがない
- ・町会の活動には中学生くらいまでの子どもは集まってくれる。それ以上の若者は来てくれないことが課題である
- ・町会費が集まらなくなっている。町会費を払わない企業もいる
- ・町会に人が居ないので、三社祭の準備する人が居ない
- ・町会に参加はしても、今後どうなっていくか、今後が見えない不安感がある
- ・年に1回限りのイベントをやるばかりでは、まちに人は集まらない。次につながらない
- ・子どもが外に転出してしまうと、町会は衰退してしまう
- ・これまで町会に参加していない新しい人を取り入れるために、新しい人が参加しやすいしくみが必要ではないか
- ・お祭りの時、うるさいと感じてしまう

キャッチボール・花火ができるスペースづくり

- ・西浅草公園で子どもを遊ばせている
- ・区内にボールを思いっきり投げる場所がない
- ・墨田区の方が子育て環境が良いと感じる。キャッチボールや花火ができる公園がある
- ・区内企業が手持ち花火を配ってくれるが、その花火をやる場所が区内にない。町会単位で予約すればスペースの使用許可をもらえるが、ハードルを感じる
- ・台東区は住居費が高い
- ・神社で花火をしたことがある。神主さんが許可をくれればできる
- ・孫がキャッチボールできる場所がない。北部はスペースがかなり限られている
- ・玉姫公園は子供を遊ばせづらい
- ・人口動態のグラフを見て、台東区は単身世帯中心であることを実感した。ファミリーに優しい地域になっている

不便を強いられている居住環境

- ・マンションが沢山建っているが、高さ制限するべきではないか。これまで見られていた隅田川の花火が見られなくなっている
- ・意外と路地の建物と建物の間から花火が見やすい
- ・浅草六区に元々住んでいたが、今はもう住みやすい環境ではなくなってきた
- ・テニスをやるのに富士小学校でやっているが、予約をとるのに苦労している。日曜日の日中しか使えない。もっと使いやすくしてほしい
- ・台東区リバーサイドスポーツセンターは、他区の団体が使ってしまう予約が取れないこともあった

コミュニティの中心になる商店街

- ・衰退した商店街がいたるところに増えている
- ・オレンジ通りはすたれてしまった。元々店舗だったところも付置義務駐車場になってしまったりしている
- ・商店街を歩くとき、子どもに声をかけてもらえる親としてうれしいし安心である
- ・公衆の喫煙所とトイレが圧倒的に少ない。増やす取組が必要である
- ・金美観通りも、商店街としてすたれてしまった
- ・入谷駅から歩いて家に帰る間の道に、お店がなくて暗い

第2回意見交換会の振り返り

チーム4

- ・黒字:まちづくりの活動(内容、活動主体、場所など)、その他
- ・緑字:活動にあたっての課題と対策(支援など)

いただいた主なご意見

歴史的価値の保存・再生・活用

- ・地域に数多く存在するお寺を地域に開放するオープンハウスを今後行いたい
- ・台東区の歴史を感じられるまちづくりが重要である
- ・ものづくり、昔からの街並み(古い家を含む)、佐竹商店街の歴史を守るまちづくりが重要である
- ・浅草見附がもともとあったことを知らない人が多いため、門を再建してほしい
- ・数多くある古い建物に対して、何を残していくかといったルール(保存方法等)作りが必要
- ・江戸時代等、歴史的な風景等をVR(仮想現実空間)で見られる様にするといいのではないか
- ・昭和感のある街並み保存の支援・補助金制度がほしい
- ・区の職員がもっと区の歴史や街並みを理解し、文化に対する意識レベルを上げるべきではないか
- ・住んでいる自分の町が変わる必要があるとは思っていない

地域資源の見える化・発信

- ・昔から住んでいる人と新しく来た人が融合したまちが実現すべきである
- ・町会活動を一齐に広報する「町会の日」を作るべきではないか
- ・地域の魅力を発信する講演会やイベントを開催してほしい
- ・街歩きワークショップの参加を通して、地域の魅力を発見している
- ・地域資源の見える化を実現した地域マップの作成(紙とデジタルの双方からアーカイブ化)が望ましい
- ・情報発信を行う等、活動への金銭的援助が必要である

コミュニケーション創出・若者の参加促進

- ・地域住民とのコミュニケーションが取れる機会の創出をすべきである
- ・若い人に参加してもらいながら、町会のイベントの周知を積極的に行い、知名度を上げる活動を実施している
- ・文化人等の有識者と出会う機会がほしい
- ・地域住民が集まる場を提供してほしい

その他

- ・浅草橋地区のまちづくり勉強会を3年間継続している
- ・JR浅草橋駅へのバリアフリー陳情を行っている
- ・保育園でのイベントやハロウィンイベントを通して子どもたちに楽しい思いをしてほしい
- ・他区のまちづくりでの反省を踏まえた仕組みづくりが必要である。特定企業への利益誘導にならないように、デベロッパー等はまちづくり協議会の会員になれないようにしている自治体もある
- ・防災面で、国の助成が使える制度を使って安心して住める街になってほしい
- ・浅草橋の従来の商売の形が変化して、仕事を継続できない
- ・昔の浅草橋を支えた人々が年齢を重ね、活力がなくなっている

意見交換会の構成

第1回 7/18

条例の構成

第2回 10/30

多様な主体による
まちづくりのあり方
について

第3回 11/20

まちづくり活動に
必要な支援のあり方
について

第4回 12/13

多様な主体による
まちづくりの進め
方について(予定)

- ・まちづくり協議会
- ・まちづくり活動グループ
- ・地域の活動団体 など

▶▶ 全4回の意見交換会を踏まえたゴール

いただいた様々なご意見をもとに、
「まちづくりに係る総合的な条例」を検討・制定

本日のテーマ

まちづくり活動に必要な支援
について

実施している まちづくり活動支援

- まちづくりの専門家の派遣
- まちづくり活動をしている団体への運営費、事業費補助

その他、台東区社会福祉協議会では、

- プロジェクター等の機材の貸し出し
- 情報発信
- 打合せスペース利用
- 情報誌へのボランティア募集掲載
- 公認会計士、税理士等の無料相談 など

地域のまちづくりを支えている例を 見てみましょう

事例をみるポイント

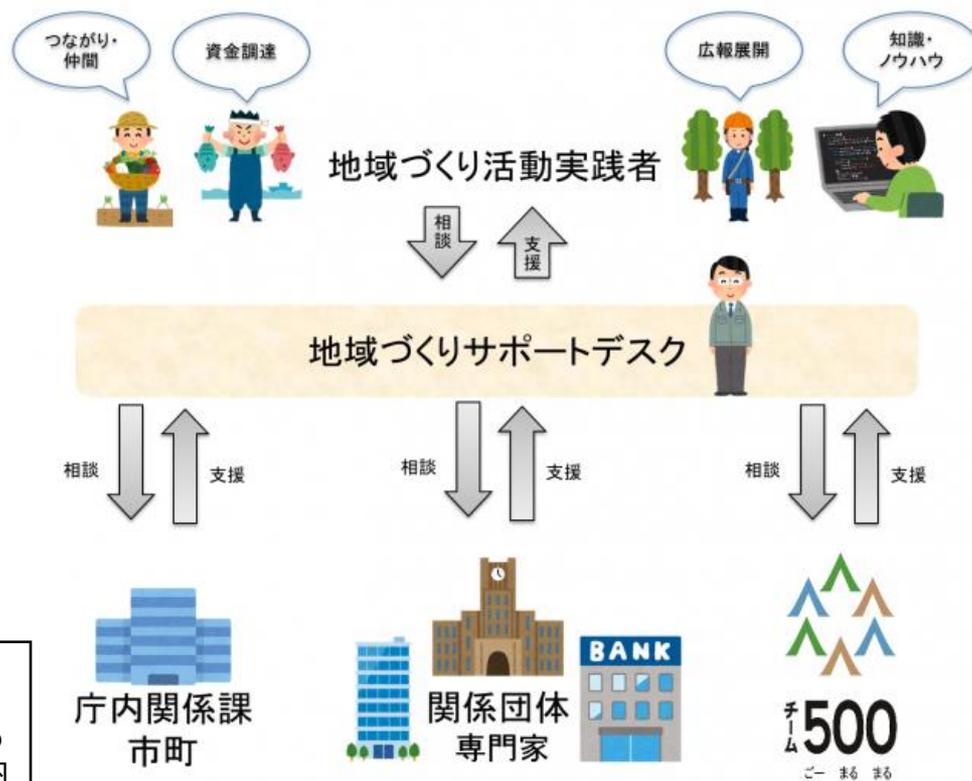
- どんな支援があるのか
- それはどんな体制で行っているのか

まちづくり活動支援の例

まちづくり活動に関する相談窓口

地域づくりサポートデスク（広島県）

- 広島県内の中山間地域のにぎわいづくりなどに取り組む人たちの相談をワンストップで受け付ける総合相談窓口
- 庁内関係課、県内市町、関係団体、チーム500などと連携し、最大限のサポートを行っています。



- 電話相談：082-513-2637
(広島県庁 中山間地域振興課内)
- メール相談：chiikisupport@pref.hiroshima.jp
- 窓口相談：広島県庁 南館2階 中山間地域振興課内

まちづくり活動支援の例

まちづくり活動を行う団体への情報共有

地域で行われているまちづくり活動の情報発信

文京区地域活動ポータルサイト「どっとフミコム」(運営：文京区社会福祉協議会)

- 文京区社会福祉協議会が区や地域住民・ボランティア・NPO・企業・大学等と連携して、新たなつながりを創出し、地域の活性化や地域課題の解決を図っていくための協働の拠点
- コンテンツ：イベント、お知らせ、ボランティア・スタッフ募集、区内企業のCSR・CSV情報、活動報告・発行広報物。団体紹介



団体紹介

<p>更新</p> <p>科博SCA (国立科学博物館サイエンスコミュニケーター・アソシエーション)</p> <p>2024年09月04日掲載</p>	<p>更新</p> <p>文京音訳講習OB会</p> <p>2024年08月27日掲載</p>	<p>更新</p> <p>特定非営利活動法人 Pigeon</p> <p>2024年08月03日掲載</p>	<p>更新</p> <p>千駄木二丁目東町会</p> <p>2024年07月30日掲載</p>
---	---	--	---

イベント

<p>NEW</p> <p>イベント 2024/12/8</p> <p>チョコレートでクリスマスプレートをかいてみよう!</p> <p>2024年11月07日掲載</p>	<p>NEW</p> <p>イベント</p> <p>【学生団体見本市】フミキャン2024</p> <p>2024年11月06日掲載</p>	<p>NEW</p> <p>イベント</p> <p>おまもりWRAPオンライン</p> <p>2024年11月02日掲載</p>	<p>NEW</p> <p>イベント</p> <p>パーソナル・メディシン・心配カードワークショップ</p> <p>2024年11月02日掲載</p>
---	---	--	---

千駄木二丁目東町会

団体ホーム	イベント	お知らせ	ボランティアスタッフ募集	区内企業のCSR・CSV情報	活動報告発行広報物
-------	------	------	--------------	----------------	-----------

千駄木二丁目東町会

NOW PRINTING

地域の方の多くが顔見知りになり、住みやすく、また、災害時にともに協力できるように、様々な行事を開催している。

この画像をタップして地域連携ステーション フミコムのホームページを見る!

ボランティアスタッフ募集	団体紹介
区内企業のCSR・CSV情報	活動報告発行広報物
イベント	お知らせ

まちづくり活動支援の例

地域まちづくり団体間の交流の機会創出

まちづくり交流会（大田区）

- 地域が連携・協働することで、地域コミュニティの課題解決力である「地域力」を高めるために、自治会・町会をはじめとする地域活動団体や地域住民との交流を深めることを目的とした交流会を開催しています。

大田区主催 地域コミュニティのきっかけづくり



まちづくり交流会

あなたが主役のまちづくり

あったらいいな！こんなまち
みんなと一緒に考えてみませんか？

2024年 9月28日 土

13:30-15:30

開場 13時20分から

参加費無料

学生や若い方の参加大歓迎
だぴょん！

場所 | 久が原会館
(大田区久が原2丁目7-11)

授乳スペースあり



■ 交流会内容

お話と相談

13:30-14:00

地域で団体活動する方の考え、いざやってみたら大変だとわかったことも共有します。ぜひあなたの視点から、相談にもってください！

わがまま共有

14:10-14:40

普段はつい遠慮してしまうわがまをあえて表現して、「こうすればできるかも？」という想像力をみんなで膨らませましょう！

自由に話す

14:50-15:30

この会を通じて感じたことや考えたことをみんなで自由に話し合しましょう。まちづくりは地域で暮らすあなたが主役です！

「子育てをきっかけに身近な公園の活用を始め、気軽に歩いて行ける『ご近所文化圏』づくりを進めています。保育園などと連携しながら、様々な世代が関わる『がんばりすぎないまちづくり』のありかたを探っているところです。」

ゲストスピーカー



田村将理(まさみち)さん
大田区東雪谷在住
- 途草会(みちくさかい)
- 池上わがまま準備室
他活動メンバー

■ 申込について

申請方法：電子申請
(右記、二次元コードよりお申し込みください)



←申込はこちらから
申込期限：9月24日(火)

【おねがい】あなたが『すきなもの・ハマっているもの』をお持ちください。
※「わがまま共有」の時に自己紹介で使用しますので、お持込できる範囲でお願いいたします。(写真でも可)

お問い合わせ：大田区 地域力推進部 地域力推進課 区民協働・生涯学習担当
TEL:03-5744-1204 E-mail: j-kyoudou@city.ota.tokyo.jp

協力：久が原特別出張所、久が原地区自治会連合会、TURNLANDプログラム

TURN LANDプログラム
<https://turn-land-program.com/>

まちづくり活動支援の例

まちづくりの専門家の派遣

まちづくりコーディネーター登録制度（横浜市）

- 地域のまちづくりに関する知識と経験があるコンサルタント業や建築事務所の方などをまちづくりコーディネーターとして登録しています。
- まちづくりコーディネーターは、地域まちづくりグループ等の求めに応じ、勉強会や検討会、まち歩きなどに参加し、地域まちづくり団体の組織化やプランづくり・ルールづくり、合意形成の方法などについて、助言・指導等を行っています。

第10期 まちづくりコーディネーター登録簿（有効期間：令和4年4月1日～令和8年3月31日）

登録番号	氏名	ルール又はプランづくり等	まち普請	市街地開発事業等	防災まちづくり等	登録期間
1	■■■■■■■■■■	○	○		○	令和8年3月31日
2	■■■■■■■■■■				○	令和8年3月31日
3	■■■■■■■■■■	○	○	○	○	令和8年3月31日
4	■■■■■■■■■■	○	○	○	○	令和8年3月31日
5	■■■■■■■■■■	○	○	○	○	令和8年3月31日

(以下略)

まちづくり活動支援の例

まちづくり活動をしている団体への運営費、事業費補助

世田谷まちづくりファンド（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）

- 区民の活動を資金面から支えるしくみとして、広く「世田谷の住みよい環境につながる」ことを目標に、区民の創意と工夫にあふれた活動の創出に寄与している助成事業です。（区民参加型ファンド）
- 区民の目線と発想から多様な活動が創出され、それらの活動は世田谷区の施策にも寄与しています。
- はじめの一步部門、まちづくり活動部門、U（アンダー）23チャレンジ部門、つながりラボ部門といった、幅広い部門の活動を対象に助成を行っています。

せたがやの住みよい環境づくりにつながる
区民主体のまちづくり活動に助成をします

第32回 公益信託 世田谷まちづくり ファンド 助成事業



2024年度の助成部門

【はじめの一步部門】
これからまちづくりの第一歩を踏み出そうとしているグループの活動に対して助成。
【助成額：一律5万円】

【まちづくり活動部門】
住みよい環境づくりをめざす住民グループの様々なまちづくり活動に対して助成。
【助成額：5～50万円】

【U23チャレンジ部門】（春・秋2回）
23歳以下の方が主体のみなさんが、世田谷のまちでやってみたいチャレンジに対して助成。
【助成額：1～10万円】

【つながりラボ部門】
社会状況の変化の中で、他者と協働し、暮らしの課題解決や新たな価値創造への実験的な活動に対して助成。すでに場（つながりラボ）をもっている活動が対象。
【助成：一律50万円】

応募事前相談 ※予約 zoom 相談可
2024年 2月16日(金)～4月5日(金)
一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
☎03-6379-1621
メールでのお問合せは裏面を参照ください。

応募受付 ※成果必着
2024年 4月8日(月)～4月22日(月)
●U23チャレンジ部門・春のみ、5月7日(火)まで

お問合せ
三井住友信託銀行
個人資産受託業務部 公益信託チーム
☎03-5232-8910

応募締め切り
4/22(月)
【U23チャレンジ部門・春は5/7日(火)まで】
郵送必着



公益信託 世田谷まちづくりファンド
SETAGAYA COMMUNITY DESIGN FUND

まちづくり活動支援の例

市民共創の場づくりと連携促進

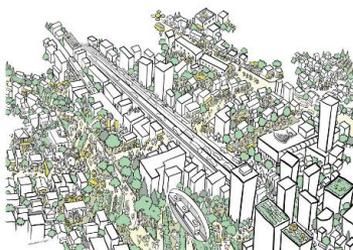
ササハタハツ（渋谷区＋民間事業者等）

※ササハタハツ：笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域
※ササハタハツまちラボ事務局：渋谷区まちづくり第一課

- 産官学民の多様な人材が参画し、まちの将来像を共有し実現するための場・仕組み・組織です。
- ササハタハツエリアでの暮らしの質の向上を目的に、関わりたくなる「場所」と「仲間」があるまちを目指して活動しています。
- ササハタハツまちラボは、ササハタハツエリアビジョンの策定や市民共創プロジェクト支援など、暮らしの質やまちの魅力を高める事業を実施・継続しています。



最新
ニュース



ササハタハツエリアに関するまちのアンケート調査を実施します！
2024.11.08



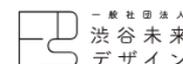
【近隣エリア情報】ママぶら 秋祭りイベント2024が開催されます！
2024.10.08



388 FARM MARCHE vol.7 (ササハタハツファームマルシェ)を開催します！
2024.10.21

主な実施事業

- ササハタハツピープルまちづくりサポート(ササハピ)
- ササハタハツまちラボ仮拠点の運営
- 388 Area Makers(まちづくりの協議体)
- 仮設FARMコミュニティ支援
- 公共空間×MARCHE
- エリアビジョン策定・更新
- 情報発信



まちラボでは、今後一緒にササハタハツエリアで活動して頂ける企業、仲間を募集しています。
興味のある方はササハタハツまちラボ事務局までご連絡ください。

まちづくり活動支援の例 まとめ

まちづくり活動に関する相談
窓口

まちづくり活動を行う団体へ
の情報共有

地域まちづくり団体間の交流
の機会創出

まちづくり活動をしている団
体への運営費、事業費補助

地域で行われているまちづくり
活動の情報発信

まちづくりの専門家の派遣

市民共創の場づくりと連
携促進

テーマ別意見交換会（計80分）

- テーマ1

地域で必要な活動とは？

- テーマ2

テーマ1で挙げた活動を実施するために必要な支援は？

基本的なルール

参加にあたってのお願い

- 他人の発言を傾聴する
- 相手の発言に対して、否定や批判的な発言をしない
- テーマと関係ない発言はしない
- 演説的な長い発言をしないように心がける
- 参加者全員が発表できるように、発言は簡潔に！
- 自分の考えを紙（ポストイット・配布フォーマット等）に書き、書いたことを順番に発表する

本日議論するテーマ

テーマ 1 それぞれのまちづくり活動の公共的な役割は？

【振り返り】前回意見交換会では、実際に行われている・行いたいまちづくり活動を挙げていただきました。

それぞれのまちづくり活動は、地域の課題解決や、地域の魅力向上に向けてどのような役割をもつと思いますか？

◆意図：それぞれのまちづくり活動は、地域の課題解決や、地域の魅力向上にどのように寄与しているかを知りたい。

本日議論するテーマ

テーマ2 テーマ1で挙げた活動を実施するために必要な支援は？

テーマ1で挙げた活動を実現するためには、
どんな制度や支援があるといいですか？

①相談窓口？

④交流の機会？

⑥運営費、事業費補助？

②情報共有？

⑤専門家の派遣？

⑦市民共創の場づくり？

③情報発信？

などなど。さらにそれぞれを「どんな相談？」
「どんな交流？」のように掘り下げると？

◆意図：まちづくり活動に必要な支援のニーズを知りたい。

(参考) 第2回意見交換会 (制度や支援等)

チーム1

相談窓口

- 区役所には都市計画や観光など様々な部署があるが、オール台東区としての窓口が必要である

交流機会

運営費、事業費補助

- マンションでの挨拶励行や、町会のもちつき大会への参加などでつながりを作っている。その活動を継続していくために、活動場所や活動費用に対して行政サポートやNPO等の支援余地がある
- マンション住民と商店街・町会との関係は、子どものつながりや集会場の活用で構築しやすくなるのではないかと

情報発信

市民共創の場づくり

- まちづくりの目的、誰のためのまちづくり(観光か住民かなど)を明確にし、様々な人が参加しやすく、コミュニティ形成が期待できるような、区民が声をあげる場所づくりが必要。さらに行政等との責任分担の仕組みや情報発信が必要である

チーム2

制度

- 都市計画の変更が必要である。用途地域は商業地域がほとんどであるが、実際は住宅が主体の地域であるなど実態と乖離がある。商業地域では容積率が高いので高層のマンションがどんどん建っている。地域特性に応じた用途地域にする必要がある

相談窓口

- 分野横断の活動が多いが、区の体制に横くしとなる所管がない
- 町会問題は区民部で調整しているが、別に違う部署をつくるかどうか検討課題ではないか

交流機会

運営費、事業費補助

- マンション内のコミュニティ醸成のためマンションロビーでのコンサートを仕掛けたいが、その企画を各マンションに提案するにあたり、活動に対する区の後援がほしい
- 区より、様々な活動(活動の周知、備品レンタル代、その他運営にかかる費用)に対して少額でもいいから資金支援があるといい
- LINEを使っているが、月額料金が必要なることから、区からの支援があるといい

情報共有

情報発信

- 区役所職員(係)で情報共有していないので、行事が重なる
- 不登校の子、障害のある方など、様々な人に幅広く参加してほしいので周知が必要
- オープンスペースでの開催時の気候の問題(酷暑、雨天など)がある。場所の環境や提供などに関する情報発信があるといい
- 情報発信について、区のHPの階層が深く見づらい。まちづくりに関しては外部サイトをつくるなどの支援が区であるといい。老若男女、誰にでも伝わりやすい広報をするための支援が必要である

(参考) 第2回意見交換会 (制度や支援等)

チーム3

交流の機会

- ・人が居たくなるリラックスできる空間づくりが必要である
- ・町会に入ったきっかけは、先輩に誘ってもらった。声をかけてもらえると入りやすい
- ・これまで町会に参加していない新しい人を取り入れるために、新しい人が参加しやすいしくみが必要ではないか
- ・神社で花火をしたことがある。神主さんが許可をくれればできる

チーム4

専門家の派遣

- ・数多くある古い建物に対して、何を残していくかといったルール(保存方法等)作りが必要
- ・江戸時代等、歴史的な風景等をVR(仮想現実空間)でみられる様にするといいのではないか
- ・区の職員がもっと区の歴史や街並みを理解し、文化に対する意識レベルを上げるべきではないか

情報発信

- ・地域資源の見える化を実現した地域マップの作成(紙とデジタルの双方からアーカイブ化)が望ましい
- ・情報発信を行う等、活動への金銭的援助が必要である

交流の機会

- ・文化人等の有識者と出会う機会がほしい
- ・地域住民が集まる場を提供してほしい

運営費、事業費補助

- ・防災面で、国の助成が使える制度を使って安心して住める街になってほしい

その他

- ・他区のまちづくりでの反省を踏まえた仕組みづくりが必要である。特定企業への利益誘導にならないように、デベロッパー等はまちづくり協議会の会員になれないようにしている自治体もある